

## 太田市自分ごと化会議 2022

### 第3回会議 議事概要

日時	2023年1月21日(土) 13時~16時
場所	太田市役所 3階 大会議室
コーディネーター	千葉県市原市 企画部長 高澤 良英
ナビゲーター	ポリシーナッジデザイン合同会社 代表 植竹 香織

コ：コーディネーター、ナ：ナビゲーター、委：委員、市：市職員

#### 議事概要

##### ■危機管理室からの情報提供

資料を元に担当から説明。チラシ(防災情報に関するお知らせ)は太田市への転入者に配布しているもので、今回の会議に合わせてポルトガル語版も作成。

##### ■前回会議までの振り返りと第3回会議の進め方

前回会議までの振り返りを行い、第3回会議の進め方を説明した。

##### 【以下、振り返りと進め方の概要】

- ・シートにかっこいいことを書くのがゴールではなく、自分の考えを書くことが大切。正解、不正解ではなく、自分の思っていることを話してほしい。
- ・第3回の前半は課題の整理を行い、後半は解決策の検討を行っていく。
- ・前回の会議までの議論や改善提案シートを別紙のとおりまとめた。発災前、被災中、発災後とタイムラインごとに分けた。今日はここに載っていない心配事を更に洗い出していってほしい。市民が何を心配に思っているのか、生の声を把握するのは市側もなかなか難しい。ぜひそういう心配事を会議の中で出してもらいたい。また、そうした心配事の解決策も出していってほしい。

##### ■防災に関する課題・解決策の話し合い

受付で選んでもらった飴の味ごとに少人数グループに分かれ、防災に関する課題と解決策を話し合っ整理した。

##### 【以下、各グループから挙げられた課題や解決策(抜粋)】

- ・外国人向けの情報がHPにあっても伝わっていない。外国人が良く集まるお店などにポスターなどで情報の入手方法が貼ってあると伝わるのでは。
- ・家に子ども一人の時に被災すると、一人では避難できないが、地域の人が避難させようとしても、見知らぬ人だと難しい。例えば、地域の世話人(交通ボランティアなど)が避難誘導をするというのが日頃からアナウンスされていれば、いざという時に避難させやすいのでは。
- ・避難路になっている道の幅が狭く、脇に古いブロック塀や生垣が並んでいるので、災害時にその道で避難できるか心配。地域の人が集まるクリーン作戦の際などに、

地域でそういう場所があるのかや、市の補助金が見えるかなどを確認できたらいいのでは。

- ・ペットの避難は公助に頼れないので自助を考えないといけない。
- ・小さい子供連れだと避難所に行きにくく感じてしまう。公設の避難所に行かないでも大丈夫な準備をしておく必要もあると感じる。
- ・尾島地区内には洪水時に避難できる避難所が無い。そうしたときにどこへ逃げればいいのか、この地域の場合は2階への垂直避難をした方が良いなど、情報をもっとあると良い。

### ■ナビゲーターからのアドバイス

ナビゲーターの植竹さんから、行動科学・ナッジを活用した防災行動促進のヒントと題してアドバイスをもらった。

#### 【以下、アドバイスの概要（抜粋）】

- ・ナッジとは規制や補助金などに大きく頼らずに行動科学の知見に基づいて行動変容を後押しする手法のこと。
- ・学生食堂で健康的な食事をしてもらいたいとする。不健康なメニューを無くしたり、健康的なものを安くしたり、健康的な食事をしようというポスターを貼ったりするのではなく、健康なメニューは手取りやすい場所に、不健康なメニューは取りにくい場所に置いて、行動に働きかけるのが「ナッジ」。
- ・人間には様々なバイアスがかかっている。損をしたくない、現状を変えたくない、他の人の行動に同調する、状況や能力を楽観視する、自分の意見に合う事実や意見のみを集めてしまう、など。
- ・広島県の例では避難を促進するために、ナッジの視点を踏まえて、「あなたの避難が、みんなの命を救う。」というメッセージを作成した。これは他の人の行動に同調するというバイアスを利用したもの。このように、人間の持つバイアスを利用することで、防災につなげられる。
- ・「EAST：ナッジの4原則」  
Easy＝簡単 ⇒デフォルト化、労力・手間を減らす、シンプルにする  
Attractive＝魅力的 ⇒注意を惹く、ポジティブ・複数のメリット、インセンティブ  
Social＝社会的 ⇒社会規範の可視化、情報発信者、社会的なつながりの活用  
Timely＝タイムリー ⇒将来利益の顕在化、タイミング、事前に計画する
- ・ナッジで防災行動を促進するヒントは、人間誰しもがバイアスを持っているということをもとに考えること。そして、「意識」ではなく「行動」に着目し、「誰に、どんな行動を取ってほしいか」、「そのために、どんな仕組みを作って提供することができるか」を考えること。

## ■「市民のための防災マニュアル」のブラッシュアップ案と活用方法案の話し合い

「市民のための防災マニュアル」のブラッシュアップ案や活用方法案を引き続き少人数グループに分かれて話し合った。また、話し合った案を全体に向けて発表し、ナビゲーターからコメントをもらった。

【以下、各グループから挙げられた案とナビゲーターからのコメント（抜粋）】

### レモングループ

《ブラッシュアップ案》

- ・家に貼っておけるような簡易版があると良い。
- ・車で避難する時の情報が載っていると良い。
- ・P.19 「大きな地震」とはどの程度のものか、判断基準が載っているといい。

《活用方法》

- ・発災前に家族で読んで計画を立てておく。
- ・マニュアルの存在を今回知った。マニュアルのことを知人にも知らせたい。

《ナビゲーターからのコメント》

- ・全部の内容を紙のマニュアルに載せるのではなく、二次元コードを掲載して必要な情報はそこからアクセスして読めるようにするのはどうか。
- ・事前に計画を立てておくと、いざという時に簡単に判断ができる。
- ・読むだけでなく家族内でチェックリストみたいな感じで書いていくと、自分ごととして考えておけるのではないか。

### みかんグループ

《ブラッシュアップ案》

- ・項目ごとにページの色が変わっているといざという時に見やすいのでは。
- ・小さい子供のいる人やお年寄りなど、要配慮者の方が避難する時にはどうしたらいいのかという視点がもっとマニュアルにあると良いのではないか。
- ・地域の人の子供を避難させなければいけない時に、その子をどこに連れていけばいいのかを、あらかじめ家族が書いておけるようなシートがあると良い。
- ・地区ごとに見られるような防災マップがあると良いのではないか。

《ナビゲーターからのコメント》

- ・色分けで視認性を上げるのはアトラクティブな観点。
- ・要配慮者が見てすぐにわかるマニュアルだと実効性も高くなる。
- ・地域ごとの小さい防災マップがあると、探しやすくイージーになるのでは。

### ぶどうグループ

《ブラッシュアップ案》

- ・ぱっと見て分かりやすいと良い。フローチャートがあるとわかりやすいのでは。

- ・高齢者でも見やすいように、マニュアルの文字がもっと大きいと良い。

#### ≪活用方法≫

- ・子供たちにもマニュアルがあることを知らせるために、学校でマニュアルのことを周知したらよいのではないか。
- ・被災した際に高校生が避難誘導に来れば子供たちも安心する。高校生や中学生がもっと防災に関心を持つように、教えていく必要があるのではないか。

#### ≪ナビゲーターからのコメント≫

- ・必要な情報を簡単に見つけやすくするというのはとても大切。
- ・釜石市においても東日本大震災の際に中学生が小学生の避難をサポートしたという事例がある。小さいころから防災意識を持つのは大切ではないか。

### ももグループ

#### ≪ブラッシュアップ案≫

- ・マニュアルの翻訳版が日本語と訳が並記されたものになっていると、日本語話者に尋ねる時に尋ねやすくなる。
- ・全ての言語の翻訳版を用意するのは難しいので、「やさしい日本語」で書かれたマニュアルがあると良い。外国人だけでなく子供や高齢者にも使いやすくなる。
- ・P.14 災害のイラストではなく、写真などリアルなものが載っていると良い。
- ・P.27 救命処置は誰が行っても良いと書いてほしい。躊躇する人が少なくなる。
- ・「危険なところに近づかない」など、当たり前なことまでは書かなくても良いのではないか。載せる情報の取捨選択が大切と思う。
- ・読み仮名が振ってあると子供でも読みやすくなる。
- ・情報にアクセスできる二次元コードがまとめられたページがあると、一気に調べられて便利ではないか。

#### ≪ナビゲーターからのコメント≫

- ・外国人の視点から「やさしい日本語」で整備されることで、その結果としてそれ以外の人にも読んでもらえるマニュアルになる。伝わる言葉で書かれていると良い。
- ・救命措置について、やった方が良いとわかっている心理的なハードルがある。「誰でもやっていい」と明記されていると行動しやすくなる。
- ・写真やアイコンなど何が伝わりやすいのかを考えていくことが大切。

#### 【グループ発表後の全体協議の中での発言】

委 P.13に風や雨の強さが載っている。その強さがどれくらいなのか動画で見られると良い。訓練で体験してリアル感をもって知れたこともあったので。

コ 雨の様子なども体験できるとリアル感を持てる。

- ナ リアルさを経験できるようにすることで防災の動機付けができる。
- コ 訓練が終わった後にみんなで体験を話し合える場があると良いと思う。
- 委 東日本大震災の時に学校で介助員をやっていて、親への子供の引き渡しをした際、苦勞した。今も学校で引き渡し訓練があるが、実感性のあるものになっていない。保護者に向けて、実際の災害時はこうでしたと伝えられる場があると良い。
- 委 自分の子供はまだ幼いので実際の訓練を体験していないが、同僚から訓練ことを聞いたことはある。訓練だから仕事を抜けて参加できるけど、突然の災害時には抜けれられないのではと感じる。先生側がスムーズにできるようにする訓練にはなっていると思うが、保護者側は訓練どおりには行かないのではと感じている。
- コ 迎えに行ける時、そうでない時、それぞれどうするというのを事前に家庭内で話しておく必要がある。また、災害に限らず、子供を持つ親が働いているということ意識して職場の周り人たちがサポートしていける体制を日頃から作っておくことが大切と感じる。
- ナ 母子手帳を取りに来る際に「親子防災手帳」を渡している自治体がある。行政との接点ができるタイミングで防災についても意識してもらえるよう働きかけるというのも手ではないか。BCPとして従業員の生活を守っていきましょうというのを企業に働きかけるのも、行政としてできることのひとつ。
- 委 学校で避難訓練をすることがあるが、学校で起きたときの想定しかしない。そうでない時の訓練ができたらと思う。学校での訓練は子供と先生との間だけで完結してしまっている。行政側とも連携できると良いのではと思う。
- ナ 実際に過ごす時間は自宅よりも勤務先や通学先だったりする。自分の生活圏で災害が起きたらどうするのか、職場や学校で形だけではない訓練ができると良い。
- 委 自分の住む地区では、高齢者の方に、普段どういう薬を飲んでいるとか、どこに通院しているかなどを書いた紙を筒に入れて冷蔵庫の中に保管してもらっている。これがあることで、救急の際などの有事にはそれを確認すれば良くなっている。
- 市 社会福祉協議会が取り組んでいる「安心カード」というもの。

コ 冷蔵庫の中という誰の家にもある物の中に入れてあるのがポイント。非常時にはこれを見ればというのが周知されていると良い。

#### ■まとめ

ナ 今日の議論の中でナッジの4原則のEASYにあたるものが多く出たのは良いことだと感じる。その上で、この施策をどう進めていくのかという時に、SocialやTimelyの観点からも合わせて考えていけると良いのではないか。

コ Timely、例えば1月17日が来たら地震のことを考えてみよう、6月の雨の時期には大雨災害について考えてみようと言えると良い。

委員から防災に関するナッジでAttractive 魅力的って難しいという話があった。例えば、防災備蓄品が消費期限を迎える際にそれを使ってパーティーをするのはどうだろうか。今は美味しい備蓄品も増えているので、その情報をみんなで共有すると楽しい。

行政側としては、太田市の住民のうちこれくらいの方は備蓄をしていますよと周知するのはどうだろうか。備えていない人の意識を変えることができるかもしれない。

市 次回の会議は3月18日(土)の13時からとなる。引き続きよろしくお願ひしたい。